

No. 853

安売りとはいいうけれど……

1911

少しでも安い野菜を台所へ——。

東京都が野菜の生産地茨城県と直接手を組んで生鮮食料品の売り出しを都内の桐ヶ丘団地で試みました。

しかし、このところ野菜も値が下り気味。いさか鮮度の落ちた安売りにもかかわらず、一般の小売り店とは
ほとんど値が変わらないあります。

『なぜもっと野菜の高い頃にやってくれなかったのか』と主婦達は口々に訴えていました。

アメリカの詩と哀愁

1801

—ベン・シャーン展—

ベン・シャーン——1898年北欧リトアニアで生まれ、8歳の時アメリカへ移住、家庭は貧しく5歳でリトグラフ工房の徒弟となった。少年期をニューヨークの貧民街で過ごした彼は、早くから「社会的不条理」に見覚めた。彼の作品には、繁栄する文明への鋭い風刺とともに、アメリカの風土への哀愁と詩情にみちた世界が、個性豊かに描かれています。

彼は現代アメリカ絵画の近代化に大きな足跡を残したのです。ベン・シャーン展は5月21日から7月5日まで
(月曜日休館) 東京国立近代美術館で行なわれています。

責任重い日本の外交

235

—カンボジア問題—

4月30日、ニクソン大統領は北側の作戦根拠地をたたくため、カンボジア侵攻を決行したが、アメリカ本国では言うまでもなく、世界各地で非難の声があがっている。日本でも新左翼を中心とした反戦運動が起り、抗議集会やデモがあいついで行なわれている。折からカンボジア問題解決のため、ジャカルタでアジア会議が開催されたが、日本からは愛知外相が出席した。会議の最大の焦点だったコミュニケは、日本の主張に近い穏やかな線で落ち着いたが、非同盟国の欠席という致命的な問題など含め、日本の外交に数多くの課題を残した。

60